

令和6年度 後期

長野県内高校生による科目等履修生（先取り履修生）対象科目

シラバス

登録コード	L1820200	開講年度	2024				
担当教員	豊岡 康史	副担当					
授業科目	東洋史概論						
英文授業名	Asian History: Introduction						
授業タイトル	中国通史(元～現代)						
単位数	2	対象学生	1～4	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室		遠隔授業科目	該当	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること		
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加わらぬ対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力			学術的成果に基づき中国通史の概略を説明できるようになる、			
	2024Lカリ, 2023Lカリ						
授業の概要	【2023年度以降加わらぬ対象】人文学部人文学科の学士(文学)の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			学術的成果に基づき中国通史の概略を説明できるようになる、			
	<p>【この授業はeAlps上でのオンデマンド動画配信で進めます】</p> <p>ユーラシア東部に位置する中国は、その領域を拡大・縮小させ、多くの民族を包含し、現在では世界経済の極めて重要な構成要素となっている。その歴史的な展開を、政治・経済・社会・思想・国際関係の各視点から総覧し、現代中国をめぐる諸問題の歴史的な背景について考える。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・現状分析：内容・評価方法説明 / 中華圏の現在 2 モンゴル帝国・元朝：「禅譲」のおわり / 世界経済の駆動 / 紙幣と銀 3 元末明初：気候変動と王朝交代 / 現物主義財政 / 朝貢貿易システム 4 明中：銀の奔流と社会の流動化 5 明末清初：銀経済と格差拡大 / 民意と統治 6 18世紀清朝経済：銀と銅銭 / 新大陸産作物とフロンティア 7 18世紀清朝対外関係：海関体制の展開とほころび 8 アヘン戦争：インド・中国・アメリカ・マンチェスターとロンドン・シティ 9 同治中興：太平天国がもたらす地獄 / 国際金本位制 / V字回復する経済 10 日清戦争と戊戌政変：「属国自主」の終わり / 近代化の先達としての日本 11 辛亥革命：義和団戦争と西太后の退場 / 藩部の独立と民族問題 / 最後の皇帝 12 民国：蒋介石の台頭 / 貨幣と衛生の近代化 / 共産党はなぜ政権を取ったか 13 人民共和国：冷戦構造と最終戦争の恐怖 / 朝鮮戦争 / 中ソ対立 / 文化大革命 14 改革開放：雪解けと改革開放 / 自由と民主 / リーマンショックと港澳台 15 まとめと現状分析：「清零宗」とポストコロナ(現状分析のため詳細未定) 授業アンケート 						
成績評価の方法	毎回、eAlps上でコメントの提出を求める。コメントには、質問を記入すること。感想のみの場合は評価の対象としない。なおコメントに、すでに講義で触れた内容そのままの質問があった場合、当該回の評価は著しく下がるので注意すること。コメントにはすべて返答する。返答された内容を踏まえていない場合も、評価は著しく下がる。また、小テストをeAlps上で1回行う。いずれも遡及しての入力は受け付けない。						
成績評価の基準	<p>コメントの評価基準</p> <p>1) 講義内容を踏まえていること、2) 内容の理解に資するような疑問を挙げていることの二点を基準として毎回5点満点で採点する。</p> <p>成績評価の基準</p> <p>2 - 15回までの合計7回分積み重ねたもの(70%)と期末小テスト(30%)をもとに東アジア世界の歴史的構造変動にかかわる理解についての評価を行う。</p> <p>小テストで概ね及第点をとり、内容を踏まえたコメントを提出しているものは、「その水準にある」といえる。</p> <p>小テストで概ね正解し、内容を踏まえたコメントを提出しているものは「やや上にある」といえる。</p> <p>小テストですべて正解し、内容を踏まえたコメントを提出しているものは「かなり上にある」といえる。</p> <p>小テストで全て正解し、内容を踏まえて当該機の歴史的展開について理解に資するコメントを提出しているものは「卓越している」といえる。</p>						
事前事後学習の内容	<p>下記参考書及び毎回紹介する参考文献を読み込むこと。</p> <p>また、コメントへの回答動画をeAlpsにアップロードするので、適宜確認すること。すでに出た質問にかんして、全く同じものが提出された場合は成績評価の対象としない。</p> <p>コメントの提出期限は毎週金曜23:59とする。</p>						
履修上の注意	<p>詳細な日程などは、eALPS上で公開します。注意してください。</p> <p>質問が重複すると、あとから書いたものは成績評価の対象とならなくなります。これまでに出た質問には必ず目を通してください(つまりあとから質問を入力すると大変)。なおeALPSには検索機能があります。</p>						
質問、相談への対応	授業の前後、あるいはeAlpsのコメント欄で受け付ける。またメール(toyooka@shinshu-u.ac.jp)でも受け付ける。						

教科書	指定しない。eALPSに掲載されるPDFを参照すること。
参考書	尾形勇・岸本美緒編『中国史』（山川出版社、1998年）ISBN: 978-4634413306、3780円 シリーズ『中国の歴史』（新版）、第6 - 12巻、講談社学術文庫、2020 - 2021年 シリーズ『中国近現代史』全6巻、岩波新書、2010-2017年 岡田英弘『モンゴル帝国の興亡』（ちくま新書、2001年）978-4480059147 岡本隆司『世界史序説』（ちくま新書、2018年）978-4480071552 菊地秀明『越境の中国史 南からみた衝突と融合の300年』（講談社、2023年）978-4065302750 岸本美緒『東アジアの「近世」』（山川出版社、1998年）978-4634341302 そのほか、講義内で適宜紹介する。

登録コード	E2018900	開講年度	2024		
授業科目	古典文学史			担当教員	西 一夫
英文授業名	History of Classical Japanese Literature I			副担当	
単位数	1	講義期間	後期(前半)	曜日・時限	火曜・5時限
講義室	教育M301講義室	授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当				
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】	
	24Eカリ, 23Eカリ				
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能			古典文学に関する専門的な知識や観点を身につけ、それらを文学史的な観点から捉えて活用した教材研究ができるようになる。	
(2)授業の概要	古典文学の作品群を中等教育において取り上げられる作品を中心に通史的に把握する。本授業では韻文作品を取り上げながら、その発生・変質と特質とをあきらかにする。その上で既成の文学概念にとらわれることなく、関連する学問領域の文化的諸要素をも取り込みながら立体的な視点で文学史を理解し、授業構想に活用することができるようになる。				
(3)授業計画	担当教員が中等教育の実務経験を活かして講義します。 第1回：文学史概説1 文学史は描けているのか 第2回：文学史概説2 文学史理解のための書記言語の変遷 第3回：韻文史1 和歌表現の展開(万葉集) 第4回：韻文史2 和歌表現の展開(勅撰和歌集・古今集) 第5回：韻文史3 和歌表現の展開(勅撰和歌集・新古今集) 第6回：韻文史4 漢詩表現の展開(勅撰漢詩集から近代の文人) 第7回：韻文史5 俳諧表現の展開(連歌を含む)、授業アンケートの実施				
(4)成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・DP1の達成目標の韻文に関して「通史的に把握」でき、かつ「発生・変質と特質」についての、各授業回での項目に関する理解度を測るための小テスト(35点) ・DP1の達成目標の韻文に関して各授業回での発見や気付きを具体的な作品または教材と併せて記述する振り返り(15点) ・DP1の達成目標の韻文に関して韻文作品または教材に関する中等教育に求められる文学史理解に関するの考察を行う最終レポート(50点) <p>・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p>				
(5)成績評価の基準	<p>秀：授業内容をきわめて高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題等に取り組み、高度な活動成果を示している。</p> <p>優：授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題等に取り組み、良好な活動成果を示している。</p> <p>良：授業内容のおおよそを理解し、講義内容を理解するとともに、与えられた課題等に誠実に取り組み、授業ねらいで求める活動成果の三分の一程度の達成が認められる。</p> <p>可：授業内容の一部を理解するとともに、与えられた課題の一部は誠実に取り組み、部分的に努力の認められる活動成果を示している。</p> <p>不可：上記の内容を満たさない。</p>				
(6)事前事後学習の内容	<p>事前学習：取り扱う領域について、使用テキスト等の当該箇所を事前に読んで内容を把握し、使用教材の内容を把握しておく。</p> <p>事後学習：領域や教材の特質について、紹介した関係文献を読んで、授業において習得した内容を確認して振り返りを作成・提出する。</p> <p>この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となる。</p>				
(7)履修上の注意	<p>授業参加にあたって 複数回の小テストが授業の理解度を測る基礎的な内容である。最終課題レポートでは、授業の内容を振り返るのではなく、取り上げた問題や観点を、各受講生の問題意識と重ね合わせて考察することが求められる。</p> <p>授業に関する情報はe-ALPSにも随時アップするので、参照のこと。</p>				
(8)質問、相談への対応及び連絡先	<p>原則的に授業時に直接おこなうことが望ましい。個人的な相談・質問の場合はメールにて。また、オフィスアワーを利用してもよい。対応可能な場合は、その他の時間でも可。</p> <p>研究室：中校舎4F 408 内線番号：4072 アドレス：nishika@shinshu-u.ac.jp</p>				
【教科書】	プリント資料				
【参考文献】	<p>(主要な書籍のみ掲げる)</p> <p>日本文藝史(小西甚一)講談社 日本文学史の試み 丸谷才一批評集成第一巻 (丸谷才一)文藝春秋社 恋と女の日本文学(丸谷才一)講談社 日本文学史辞典 古典編(三谷栄一・山本健吉編)角川書店 恋の歌、恋の物語 日本古典を読む楽しみ (林望)岩波ジュニア新書 恋する伊勢物語(俵万智)ちくま文庫 愛する源氏物語(俵万智)文春文庫 西鶴が語る江戸のラブストーリー：恋愛奇譚集(西鶴研究会)ペリかん社 漢字は日本語である(小駒勝美)新潮新書</p>				

【参考文献】	漢文の素養 誰が日本文化をつくったのか？ (加藤徹)光文社新書 漢文脈と近代日本 もう一つのことばの世界 (齋藤希史)NHKブックス 古文の読解(小西甚一)ちくま学芸文庫 古文研究法(小西甚一)洛陽社
--------	---

登録コード	E2019900	開講年度	2024			
授業科目	古典文学史			担当教員	西 一夫	
英文授業名	History of Classical Japanese Literature II			副担当		
単位数	1	講義期間	後期(後半)	曜日・時限	火曜・5時限	対象学生
講義室	教育M301講義室	授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】		
	24Eカリ, 23Eカリ			教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能		
				古典文学に関する専門的な知識や観点を身につけ、それらを文学史的な観点から捉えて活用した教材研究ができるようになる。		
(2)授業の概要	古典文学の作品群を中等教育において取り上げられる作品を中心に通史的に把握する。本授業では散文作品を取り上げながら、その発生・変質と特質とをあきらかにする。その上で既成の文学概念にとらわれることなく、関連する学問領域の文化的諸要素をも取り込みながら立体的な視点で文学史を理解し、授業構想に活用することができるようになる。					
(3)授業計画	担当教員が中等教育の実務経験を活かして講義します。 第1回：散文史1 散文史概観、神話（古事記）・伝奇物語（竹取物語） 第2回：散文史2 歌物語（伊勢物語・大和物語） 第3回：散文史3 作り物語（源氏物語） 第4回：散文史4 歴史物語（大鏡・栄華物語） 第5回：散文史5 軍記物語（平家物語） 第6回：散文史6 随筆（枕草子・方丈記・徒然草） 第7回：散文史7 日記（仮名日記）・仮名草子、授業アンケートの実施					
(4)成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・DP1の達成目標の韻文に関して「通史的に把握」でき、かつ「発生・変質と特質」についての、各授業回での項目に関する理解度を測るための小テスト（35点） ・DP1の達成目標の韻文に関して各授業回での発見や気付きを具体的な作品または教材と併せて記述する振り返り（15点） ・DP1の達成目標の韻文に関して韻文作品または教材に関する中等教育に求められる文学史理解に関しての考察を行う最終レポート（50点） <p>・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p>					
(5)成績評価の基準	<p>秀：授業内容をきわめて高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題等に取り組み、高度な活動成果を示している。</p> <p>優：授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題等に取り組み、良好な活動成果を示している。</p> <p>良：授業内容のおおよそを理解し、講義内容を理解するとともに、与えられた課題等に誠実に取り組み、授業ねらいで求める活動成果の三分の一程度の達成が認められる。</p> <p>可：授業内容の一部を理解するとともに、与えられた課題の一部は誠実に取り組み、部分的に努力の認められる活動成果を示している。</p> <p>不可：上記の内容を満たさない。</p>					
(6)事前事後学習の内容	<p>事前学習：取り扱う領域について、使用テキスト等の当該箇所を事前に読んで内容を把握し、使用教材の内容を把握しておく。</p> <p>事後学習：領域や教材の特質について、紹介した関係文献を読んで、授業において習得した内容を確認して振り返りを作成・提出する。</p> <p>この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となる。</p>					
(7)履修上の注意	<p>授業参加にあたって</p> <p>複数回の小テストが授業の理解度を測る基礎的な内容である。最終課題レポートでは、授業の内容を振り返るのではなく、取り上げた問題や観点を、各受講生の問題意識と重ね合わせて考察することが求められる。</p> <p>授業に関する情報はe-ALPSにも随時アップするので、参照のこと。</p>					
(8)質問、相談への対応及び連絡先	<p>原則的に授業時に直接おこなうことが望ましい。個人的な相談・質問の場合はメールにて。また、オフィスアワーを利用してもよい。対応可能な場合は、その他の時間でも可。</p> <p>研究室：中校舎4F 408 内線番号：4072 アドレス：nishika@shinshu-u.ac.jp</p>					
【教科書】	プリント資料					
【参考文献】	<p>(主要な書籍のみ掲げる)</p> <p>日本文藝史(小西甚一)講談社 日本文学史の試み 丸谷オ一批評集成第一巻 (丸谷オ一)文藝春秋社 恋と女の日本文学(丸谷オ一)講談社 日本文学史辞典 古典編(三谷栄一・山本健吉編)角川書店 恋の歌、恋の物語 日本古典を読む楽しみ (林望)岩波ジュニア新書 恋する伊勢物語(俵万智)ちくま文庫 愛する源氏物語(俵万智)文春文庫 西鶴が語る江戸のラブストーリー：恋愛奇譚集(西鶴研究会)ペリかん社 漢字は日本語である(小駒勝美)新潮新書 漢文の素養 誰が日本文化をつくったのか? (加藤徹)光文社新書 漢文脈と近代日本 もう一つのことばの世界 (齋藤希史)NHKブックス</p>					

【参考文献】	古文の読解(小西甚一)ちくま学芸文庫 古文研究法(小西甚一)洛陽社
--------	--------------------------------------

登録コード	E5018901	開講年度	2024			
授業科目	STEAMものづくり入門 B			担当教員	村松 浩幸 他	
英文授業名				副担当		
単位数	1	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】		
	2 4 E カリ, 2 3 E カリ					
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能			STEAM教育に必要となる二次元のデジタルファブリケーション技術の専門的知識と技能を身につけることができる。		
(2)授業の概要	初等段階を主対象に、STEAM教育に必要となる二次元のデジタルファブリケーション技術の基礎的な知識と技術を講義や演習形式で学ぶ。また、先進的なものづくりの技術や実践について知り、ものづくり指導法についての知識を得る。					
(3)授業計画	<p>第 1 回：STEAM教育におけるものづくりの考え方(村松)・オンライン 第 2 回：デジタルファブリケーションの概要とCADの基本(村松)・オンライン 第 3 回：CADの活用と作品データ作成(村松)・オンライン 第 4 回：カッティングマシンによる加工演習(村松・小倉)・対面集中 第 5 回：レーザー加工機の基本(村松・小倉)・対面集中 第 6 回：レーザーカッターによる加工演習(村松・小倉)・対面集中 第 7 回：オリジナル作品の発表会と相互評価(授業アンケート含む)(村松・小倉)・対面集中</p> <p>定期試験 情報機器の活用を含む(以後全ての回を含む)</p>					
(4)成績評価の方法	<p>演習の取り組み状況(50点・ものづくりの知識と技能)、課題提出状況(50点・製作技能・ものづくりの指導力)から総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習課題については、課題毎に書式、内容等の評価項目を設定し、5段階でポイント化した総得点を演習課題評価とする。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 <p>90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p>					
(5)成績評価の基準	<p>課題およびレポートに対して、概要が適切に説明されている。基礎的事項が科学的理論に基づいて説明されている。理論と実際とが比較検討されている。理論と実際との比較から問題点と課題が把握できている。自分の見解を科学的理論に基づいて考察されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ~ 項目までができていれば「水準にある」 ・ ~ 項目までができていれば「やや上にある」 ・ ~ 項目までができていれば「かなり上にある」 ・ ~ 項目までができていれば「卓越している」 <p>得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p>90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p>					
(6)事前事後学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・演習により時間を割けるように、eAles上に事前学習課題(小テスト)や参考資料を提示しておく。なお、60分以上の事前学習が必要である。また、授業後は復習の課題や演習課題を共有し、学習内容の定着をはかる。課題レポートの作成を通して授業内容の理解を深める。 					
(7)履修上の注意	<p>(1)各課題は、指定期限内に完成をさせて提出すること。</p> <p>(2)課題については、授業外にも適宜相談をすること。</p>					
(8)質問、相談への対応及び連絡先	木曜日 13:00~14:00 238-4175, muramatu@shinshu-u.ac.jp					
【教科書】						
【参考文献】	FabLab長野のオンラインドキュメント(URLは授業内で指示)					

登録コード	E5019901	開講年度	2024			担当教員	村松 浩幸 他
授業科目	STEAMものづくり入門 B					副担当	
英文授業名						対象学生	
単位数	1	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	備考	
講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 4 E カリ, 2 3 E カリ						
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				STEAM教育に必要となる三次元のデジタルファブリケーション技術の専門的知識と技能を身につけることができる。		
(2)授業の概要	初等段階を主対象に、STEAM教育に必要となる二次元のデジタルファブリケーション技術の基礎的な知識と技術を講義や演習形式で学ぶ。また、先進的なものづくりの技術や実践について知り、ものづくり指導法についての知識を得る。						
(3)授業計画	第 1 回：STEAM教育における3Dでのものづくりの考え方(村松)・オンライン 第 2 回：3Dデータの概要と3D-CADの基本(村松)・オンライン 第 3 回：オリジナル作品の設計とデータ作成(村松)・オンライン 第 4 回：3D-プリンタの基本(村松・小倉)・対面集中 第 5 回：3D-プリンタの演習(村松・小倉)・対面集中 第 6 回：3D-プリンタの演習(村松・小倉)・対面集中 第 7 回：オリジナル作品の発表会と相互評価(授業アンケート含む)(村松・小倉)・対面集中 定期試験 情報機器の活用を含む(以後全ての回を含む)						
(4)成績評価の方法	演習の取り組み状況(50点・ものづくりの知識と技能)、課題提出状況(50点・製作技能・ものづくりの指導力)から総合的に評価する。 ・演習課題については、課題毎に書式、内容等の評価項目を設定し、5段階でポイント化した総得点を演習課題評価とする。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	課題およびレポートに対して、概要が適切に説明されている。基礎的事項が科学的理論に基づいて説明されている。理論と実際とが比較検討されている。理論と実際との比較から問題点と課題が把握できている。自分の見解を科学的理論に基づいて考察されている。 ・ ~ 項目までができていれば「水準にある」 ・ ~ 項目までができていれば「やや上にある」 ・ ~ 項目までができていれば「かなり上にある」 ・ ~ 項目までができていれば「卓越している」 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(6)事前事後学習の内容	・演習により時間を割けるように、eAles上に事前学習課題(小テスト)や参考資料を提示しておく。なお、60分以上の事前学習が必要である。また、授業後は復習の課題や演習課題を共有し、学習内容の定着をはかる。課題レポートの作成を通して授業内容の理解を深める。						
(7)履修上の注意	(1)各課題は、指定期限内に完成をさせて提出すること。 (2)課題については、授業外にも適宜相談をすること。						
(8)質問、相談への対応及び連絡先	木曜日 13:00~14:00 238-4175, muramatu@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	特になし						
【参考文献】	FabLab長野のオンラインドキュメント(URLは授業内で指示)						

時間割コード	G2B41001	開講年度	2024				
授業題目	マクロ経済学入門【EA】		担当教員	ウェステニウス 嘉晃			
英文授業名	Introduction to Macroeconomics						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・3時限	対象学生	全
講義室	共通教育13講義室	授業形態	講義	遠隔授業科目		備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	大学DP 学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力			マクロ経済学の基本的な知識を獲得して、現実で観測される経済現象を解釈することができるようになる			
(2)授業の概要	この講義では、マクロ経済学の基本的な知識について、教科書に基づきながら次のとおり説明する。第一に、一国における経済活動の規模を把握するうえで重要となる経済統計について説明する。第二に、経済統計に現れる一国経済の特徴を長期的に決定づける要因について解説する。第三に、一国経済において経済活動の規模が短期的に変動する現象や、金融財政政策の短期的な効果についての解説を行う。なお、この授業は全ての授業をe-Learningで行うオンデマンド授業となります。動画はLMS(学習管理システム: Learning Management System)に掲載します。						
(3)授業のキーワード	マクロ経済学、経済統計、財政学、金融論						
(4)授業計画	第1回: 日本経済の現況 第2回: 国民所得の測定 - マクロ経済統計 第3回: 生計費の測定 - 物価指数 第4回: 生産と成長 第5回: 貯蓄・投資と金融システム 第6回: 失業 第7回: 貨幣システム 第8回: 貨幣量の成長とインフレーション 第9回: 開放経済のマクロ経済理論 第10回: 経済の総需要と総供給 第11回: 経済活動の短期的変動 第12回: 総需要に対する金融政策の影響 第13回: 総需要に対する財政政策の影響 第14回: インフレ率と失業率の関係 第15回: マクロ経済政策に関する論争, 授業アンケート(最後の15分で実施)						
(5)成績評価の方法	小テストを3回実施し、学期末に期末テストを実施します。小テストは、LMS上で実施し、選択問題もしくは計算問題が出題されます。また学期末の期末試験についても、同様の形式で実施します。小テスト、期末試験の受験方法の詳細は、ポータルサイトに掲載しますので、必ず確認するようにしてください。授業動画では、小テストに向けた練習問題等も説明します。成績評価は、小テスト(30%)と期末試験(70%)を目安に総合して行います。						
(6)成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「合格水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」						
(7)事前事後学習の内容	講義で示された例題や、教科書に掲載されている問題に講義後に取り組んでおくこと。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。						
(8)履修上の注意	単位を与えられるためには、授業に出席するだけでなく、予習復習などの授業時間外学修を行わなければならない。小テストは、理解の度合いを試す機会と位置付けられます。小テストに関する情報はLMSに掲載しますので、毎週必ずLMSを確認してください。講義の内容については、毎回資料を掲載するほか、必要に応じて参考文献を紹介するので、それらを活用すること。						
(9)質問、相談への対応	メールにて受け付ける。メールアドレスとオフィスアワーについては初回の講義で案内する。						
(10)授業への出席	マクロ経済学入門は、全ての授業をe-Learningで行う【EA】授業となります(授業動画をLMSで公開します)。質問はLMSで受け付けます。また、小テスト・期末試験の日程や実施方法もLMSでお知らせします。						
(11)授業に出席できない場合の学修の補充	LMS上の授業の動画は、成績が確定されるまでは閲覧できるようにします。						
【教科書】	N・グレゴリー・マンキュー(著), 足立英之/石川城太/小川英治/地主敏樹/中馬宏之/柳川隆(訳), マンキュー経済学 マクロ編, 第4版, ISBN:978-4-492-31520-0, 東洋経済新報社, 2019年, 4000円+税						
【参考書】	講義において案内する。						

時間割コード	G2B41099	開講年度	2024				
授業題目	ミクロ経済学入門【EA】		担当教員	増原 宏明 他			
英文授業名	Introductory Microeconomics			廣瀬 要輔・本多 純・舛田 武仁・三上 亮			
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	不定・集中	対象学生	県内高校生先取り履修対象
講義室		授業形態	e-Learning	備考			
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	大学DP 学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力			経済学の基礎をなす理論であるミクロ経済学の基本的な考え方を学ぶことで、経済現象を理論的に解釈する基礎力を養うことができるようになる。			
(2)授業の概要	まず、経済学的な考え方に関する基礎知識を解説し、その上で、経済学の考え方の基本である、需要と供給の理論について考えてみます。その上で、価格変化への消費者の反応など、市場取引の特徴について理解を深めることとします。その後、需要と供給の理論に基づいて、現実に行われた政府の政策の効果を分析します。なお、講義は、下記の授業計画の通り、トピックス毎に、三上、広瀬（要）、舛田、増原、本多の5人によって行われます。なお、この授業は全ての授業をe-Learningで行うオンデマンド授業となります。動画はポータルサイトに掲載します。						
(3)授業のキーワード	ミクロ経済学，市場メカニズム，需要，供給，経済政策						
(4)授業計画	第1回 三上亮 インTRODクシヨン，経済学の十大原理 第2回 三上亮 経済学者らしく考える 第3回 三上亮 相互依存と貿易（取引）からの利益 第4回 広瀬要輔 需要と供給 第5回 広瀬要輔 均衡と需要曲線・供給曲線のシフト 第6回 舛田武仁 需要の弾力性：基礎 第7回 舛田武仁 需要の弾力性：発展 第8回 舛田武仁 供給の弾力性 第9回 増原宏明 消費者余剰と生産者余剰 第10回 増原宏明 市場の効率性と余剰の計算 第11回 本多純 税金 第12回 本多純 応用：課税の費用 第13回 本多純 応用：国際貿易 第14回 増原宏明 外部性と市場の効率性 第15回 増原宏明 外部性に対する公共政策						
(5)成績評価の方法	各教員の授業終了後に小テストを行い、学期末に期末テストを実施します。小テストは、ラーニングマネジメントシステム上で実施し、選択問題もしくは計算問題が出題されます。また学期末の期末試験についても、同様の形式で実施します。小テスト、期末試験の受験方法の詳細は、システムに掲載しますので、必ず確認するようにしてください。授業動画では、小テストに向けた練習問題等も説明します。成績評価は、小テスト(50%)、各教員10%。ただし第14回と15回は期末試験で評価するため、小テストは行わないと期末試験(50%)を目安に総合して行います。						
(6)成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題から難しい応用問題が解ければ「卓越している」、と判断します。						
(7)事前事後学習の内容	講義の内容を理解し、単位を取得するためには、講義資料や教科書の内容を暗記するだけでは不十分です。講義に対応する教科書中の例題を実際に解いてみるなどの練習を繰り返すことが、講義内容を習得する上で役に立つはずですが、動画を全部をまとめて視聴すると大変ですので、毎週、決まった時間に視聴することをお勧めします。						
(8)履修上の注意	復習の過程で不明な点や理解できない点が出てきた場合、必ず担当教員に質問するよう心掛けること。経済学の分析による帰結は、普段、直観的にイメージしていることとは異なることが少なくありません。学習した内容をすぐに確認し、理解するように努めて下さい。小テストは、理解の度合いを試す機会と位置付けられます。小テストに関する情報はポータルサイトに掲載しますので、毎週必ずポータルサイトを確認してください。講義の内容については、毎回資料を掲載するほか、必要に応じて参考文献を紹介するので、それらを活用すること。						
(9)質問、相談への対応	【EA】授業であるため、メールにて質問を受け付けます。ただし、受講人数が多いため、毎年同じ質問が寄せられると、担当者が対応しきれません。皆様からよく寄せられる質問については、ポータルサイトに注意事項として掲載しています。とりわけ事務手続きについては、こちらがすべてを把握できていませんので、まずは大学のホームページとポータルサイトを熟読してください。授業内容についてわからないことがありましたら、メールで質問をお寄せください(masuhara@shinshu-u.ac.jp)。さらに、授業内容に関する質問については、他の学生にとっても有用であることが多いため、質問（個人情報掲載しません）と回答をポータルサイトに掲載させていただきますので、あらかじめご了承ください。						
(10)授業への出席	ミクロ経済学入門は、全ての授業をe-Learningで行う【EA】授業となります。授業動画をシステムで公開します。また、小テスト・期末試験の日程や実施方法もシステム上でお知らせします。						
(11)授業に出席できない場合の学修の補充	システム上の授業の動画は、成績が確定されるまでは閲覧できるようにします。						
【教科書】	マンキュー経済学I ミクロ編(第4版) N. グレゴリー マンキュー (著), 足立英之, 柳川隆, 石川城太, 小川英治, 地主敏樹, 中馬宏之 (翻訳), 東洋経済新報社, 4200円 ISBN-13: 978-4492315194						
【参考書】	必要に応じて、授業中に随時紹介します。						

登録コード	F3002010	開講年度	2024		
授業科目	繊維科学の基礎（講義）			担当教員	若月 薫 他
英文授業名	Introduction to Textile Science and Engineering			副担当	堀場 洋輔・平田 雄一・金井 博幸
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限
講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当				
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】	
	2 4Fカリ・先進感性, 2 4Fカリ・機械味付, 2 4Fカリ・化学材料, 2 4Fカリ・応用生物				
	繊維科学に関連する総合的な自然科学分野の普遍的基礎学力が身に付いている			本授業は、繊維科学に関連する総合的な自然科学分野の普遍的基礎学力を身に付けることを目標とする。 また、日本でただ一つの繊維学部への帰属意識や、繊維学部生としてのアイデンティティを形成するために、繊維科学に関する基礎的知識を知るとともに、現代社会における役割を理解することを目標とする。 さらに、繊維科学の基礎と高年次専門カリキュラムとの関連を知ることを目標とする。	
(2)授業の概要	この授業では、「繊維とは何か」、「どのようにつくられるか」という基礎知識を解説するとともに、それらの技術が「どのように活用されるか」という発展内容について解説する。 このため、まず、繊維学部と繊維科学の発展の歩みを知り、次に、一般的な繊維製品製造プロセスを説明する。 具体的には、繊維材料（天然繊維、化学繊維）、繊維製品の代表的な製造工程（紡績、製布、染色）、衣服の製造工程、および繊維製品の計測・評価法をテーマとする。 これらの基礎知識を踏まえ、繊維科学に関連する先端的研究テーマや応用分野についても解説する。				
(3)授業計画	本授業は、基礎知識（おおよそ60分）と発展内容（おおよそ30分）、計90分の授業を1コマとする。 基礎知識と発展内容の映像は、eALPSの毎回の授業に設定された動画リストのものを視聴する。 なお、授業内容及び進め方は、一部修正・変更することがある。 1. ガイダンス, 繊維とは 2. 天然繊維 #01 3. 天然繊維 #02 4. 化学繊維 #01 5. 化学繊維 #02 6. 紡糸・紡績 - 糸づくり #01 7. 紡糸・紡績 - 糸づくり #02 8. 製布 - 布づくり #01 9. 製布 - 布づくり #02 10. 染色と加工 #01 11. 染色と加工 #02 12. 被服 #01 13. 被服 #02 14. 繊維製品評価 #01 15. 繊維製品評価 #02				
(4)成績評価の方法	「繊維学部生が身に付けるべき繊維科学の基礎知識の水準」に到達しているかを判定する。 水準に到達した場合は単位を認定し、水準に到達していない場合は単位を認定しない。 したがって、この授業は、GPIに準じた成績評価（秀、優、良、可、不可）の評定は行わないため、GPAの計算には含まれない。				
(5)成績評価の基準	この授業の目標の一つは「繊維科学に関連する総合的な自然科学分野の普遍的基礎学力を身に付けること」である。 したがって、教科書および講義動画の内容に関する期末試験を行い、この成績を元に繊維学部生が身に付けるべき繊維科学の基礎知識の水準に到達しているかを判定する。 なお、期末試験の受験資格を得るためには、各回で行う小テストにおいて講義の内容を理解したと評価されることが必要である。				
(6)事前事後学習の内容	この授業は90時間の学修を必要とする内容である。 従って、60時間以上の時間外学習が必要となる。 1. 各回の授業を受講するにあたり、教科書を読み、ノートにまとめる。また、内容が理解できなかった点、疑問に感じた点を抜き書きし、授業に備える。この予習には各回2時間程度の学習が必要になる。 2. 予習したノートを元に、eALPSに掲載された授業動画を視聴し、テキストを読んで理解できなかった点や疑問だった点を理解する。 3. 授業後は教科書を読み返して理解を深めた後、eALPSに設定される小テストを受験し、授業内容の理解度を確認する。各授業の講義動画および小テストは第1回から順次、受講可能になる。各回の講義動画視聴後、小テストを受け合格することで講義の内容を理解したと評価される。講義動画は小テストに合格するまで視聴可能なため、繰り返し視聴し、授業内容の理解を深め、小テストに合格すること。この復習には各回2時間程度の学習が必要である。				

(7)履修上の注意	毎回の授業を受講するだけではなく、予習と復習を行わなければならない。 さらに、毎回、eALPSに設定された小テストに合格しなければならない。 そのため、できるだけ授業当日に小テストを受験することが望ましい。期末試験期間までに全ての小テストに合格していない場合は、期末試験を受験できないので注意すること。 未修了の小テストがあっても、これに対する追加の措置は行わない。 したがって未修了の小テストをためることなく、毎週確実に修了できるよう心がけること。
(8)質問,相談への対応	授業における問い合わせは、別途eALpsへ問い合わせ用フォームを設けるので、そちらを活用すること。
(9)学生へのメッセージ	この授業をとおして、繊維学部のことや身の回りの繊維に関心をもつよう心掛け、高年次専門カリキュラムとの関連についても理解を深めてほしい。また、繊維学部生としてのアイデンティティを形成するための一歩としてほしい。
(10)その他	なし
【教科書】	「繊維科学の基礎」 信州大学繊維学部編 丸善雄松堂
【参考書】	<p>【天然繊維】</p> <p>(1) カイコの実験単 カイコで生命科学をまるごと理解! (生物の科学 遺伝 別冊No.23) 金児 雄, 塩見 邦博, 天竺桂 弘子, 外川 徹, 横山 岳 他 ・出版社: エヌ・ティー・エス (2019/3/22) ・発売日: 2019/3/22 ・言語: 日本語 ・単行本: 304ページ ・ISBN-10: 4860435982 ・ISBN-13: 978-4860435981</p> <p>(2) カイコの科学 単行本 日本蚕糸学会 (編集) ・出版社: 朝倉書店 (2020/6/1) ・発売日: 2020/6/1 ・言語: 日本語 ・単行本: 210ページ ・ISBN-10: 4254420439 ・ISBN-13: 978-4254420432</p> <p>【衣服】</p> <p>(1) おもしろサイエンス 繊維の科学 日本繊維技術士センター 編 ・出版社: 日刊工業新聞社 (2016/12/23) ・発売日: 2016/12/23 ・言語: 日本語 ・単行本: 160ページ ・ISBN-10: 4526076414 ・ISBN-13: 978-4526076411</p> <p>(2) 知っておきたい繊維の知識524 日本繊維技術士センター 著 ・出版社: ダイセン (2019/4/1) ・発売日: 2019/4/1 ・言語: 日本語 ・ISBN-10: 4990491076 ・ISBN-13: 978-4990491079</p> <p>(3) アパレルと健康: 基礎から進化する衣服まで 日本家政学会被服衛生学部会 編 ・出版社: 井上書院 (2012/4/10) ・発売日: 2012/4/10 ・言語: 日本語 ・単行本: 173ページ ・ISBN-10: 4753023222 ・ISBN-13: 978-4753023226</p>

時間割コード	GOA20008	開講年度	2024				
授業題目	データサイエンスリテラシー【EA】				担当教員	平井 佑樹	
英文授業名	data science literacy						
単位数	1	講義期間	後期(前半)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	T
講義室		授業形態	e-Learning	遠隔授業科目	該当	備考	【地域】
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	大学DP 学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				データサイエンスの見方に沿って情報を捉えることができる。 モデルカリキュラム「基礎」においては、データの図示の中に 代表値や散布度などの統計量を読み取れる。		
(2)授業の概要	<p>AI（人工知能）技術の急速な普及を背景にビッグデータの処理と活用が可能となり、データサイエンスの必要性が急速に増したことで、我が国はデータサイエンスを2025年に大学生全員が身につけるべき素養として位置づけており（参考：文部科学省「AI戦略2019」）、データサイエンス教育コンソーシアムにより学習すべきリテラシーレベルのカリキュラムも公表されました。</p> <p>本授業ではそのリテラシーレベルの学習を進めます。データサイエンスの必要性については、これからの社会のあり方を考え、そこで生活する個人の立場を念頭にいた理解を図ります。また、データサイエンスの基礎を築いていくために不可欠な統計学、情報科学、数学の位置づけを理解します。</p> <p>そのために、こうした問題を密接なものとしてとらえやすいよう、オープンデータとして提供されている実データ、とくに信州大学のある長野県の実情を明らかにするものを取り入れた多くのデータ処理結果を基本材料に進めます。</p>						
(3)授業のキーワード	問題発見・解決，論理的思考，データサイエンス，統計学，プログラミング，数理的手法						
(4)授業計画	<p>第1回：（導入）データ駆動型社会とSociety5.0 現代社会の特徴としてSociety5.0などの概念がなぜ提唱されるようになったのか全体像の把握を目指します。また経済産業省の新産業ビジョンや第4次産業革命などの理解を通じて、私たちがデータサイエンスを必修とすべき時代となった背景へのより正確な描像を築きます。</p> <p>第2回：（導入，心得）データの増大する社会とAIの必要性 データを日夜増大させ続ける社会の仕組み，とくにIoTの広がりインターネットで集積される情報を扱う分析装置としてのAIの必要性をとらえること，また，インターネット上のSNSを中心にAIの活用の仕方が情報セキュリティを含めて，私たちの社会のあり方を大きく変えつつある現状を把握します。たとえば東京五輪（2021年）のアメリカでのTV中継視聴率が前回五輪（2016年）に比べて5割近くと大きく落ち込んだのも，そうした現れの一つです。</p> <p>第3回：（導入，心得）オープンデータの活用と個人情報管理 基礎編で扱うオープンデータの活用に焦点を当て，データ駆動型社会のあり方を考えます。またデータベース管理技術の視点から個人情報管理の重要性に気づいてください。政府統計のe-statや地域経済分析のRESASにある実データは，オープンデータの一例です。 こうしたデータの取り扱いの中に，個人情報保護の技術がどう関わるかも説明します。</p> <p>第4回：（基礎，導入）1変量データから情報を得る方法の概説 代表値*，散布度*，箱ひげ図*，分布の図示（*は高校までで既習） 箱ひげ図ではとくに分布の特徴が要約されているので重要です。なお，2021年度までの高校数学Iで扱った計算法の一部は特殊であり，実際には別定義が使われています。 分布の図示を介すると，複数のデータの特徴の比較や，ビッグデータによく現れるべき分布的な特徴を読み取ることもできます。</p> <p>第5回：（基礎，導入）2変量以上のデータから情報を得る方法の概説 クロス集計，散布図*，相関係数*，回帰直線（*は高校までで既習） クロス集計に伴う分割表の考え方は，私たちが統計データへの判断で犯しがちである誤認を避ける上で重要な見方です。また回帰直線は人工知能による予測技術などで多用される基本技術です。多くの実データを通じて，2変量の相関と予測との関連に触れていきます。</p> <p>第6回：（基礎，導入）図示による表現 第4回と第5回の概説を踏まえて「導入」で話題とした事例などを，適切にグラフを描くことやビッグデータによく表れる分布を通じて確認をします。</p> <p>第7回：（基礎，導入）数値による比較 第4回と第5回の概説を踏まえてこれまで取り上げた統計処理に関わる概念が，人工知能技術へいかに適用されているのかを確認します。</p> <p>第8回：（導入，基礎，心得）総括 現代社会におけるSociety5.0の概念が絵空事でないことを，基礎編で扱った事例も交えて振り返ります。</p>						
(5)成績評価の方法	<p>第1回から第7回まで毎回の課題ごとに10点で合計70点，総合問題（第8回）20点。</p> <p>いずれもeALPS/eChes上に課題を掲示し，eALPS/eChes上で課題を提出します。</p>						

(5)成績評価の方法	他に授業に相応しい良い質問に対して最大20点の加点をします。ただし全体で100点は超えません。
(6)成績評価の基準	60点未満：不可 60点以上70点未満：可 70点以上80点未満：良 80点以上90点未満：優 90点以上：秀
(7)事前事後学習の内容	毎回の授業においては、eALPS/eChes上に指示のある復習すべき内容をもとに小テスト（練習問題）が提供されるので、それを参考に学習を進めてください。 授業に相応しい良い質問に対して加点があるので、提供資料を批判的に見ることを心がけてください。 この授業は45時間の学修を必要とする内容です。
(8)履修上の注意	クラス指定必修科目です。授業開始日までに履修登録を済ませてください。 eALPS/eChesに掲載した方法にしたがって課題（レポート提出または小テストの受験）があります。各課題にはそれぞれ締め切りが設定されているので、期日までに提出または受験してください。また質問に対する加点となるような良い質問を期待しています。 授業で提供した材料で説明のあるデータ処理において、各自が実習を行う課題はありませんが、多くの課題は実行できるプログラムとして提供してあります。興味のある人は自習を進めてみてください。質問にも対応します。
(9)質問,相談への対応	eALPS/eChes上の掲示板およびメール yhirai[-at-mark-]shinshu-u.ac.jp によります（[-at-mark-]は@に置き換え）。研究室訪問もメールで事前に時間帯を打合せてください。 eALPS/eChesの使い方についてはe-Learningセンターに相談してください。
(10)授業への出席	オンデマンドで実施するため、出欠は確認しません。
(11)授業に出席できない場合の学修の補充	出欠を確認しないため、原則、補充対応は行いません。学修の補充に関する申請があれば、個別に対応します。
【教科書】	授業は教科書に沿って進めるわけではありません。データサイエンス・数理・AI教育強化拠点コンソーシアムの提供するモデルカリキュラムの詳細を次の書籍で確認できます。 竹村彰通編「教養としてのデータサイエンス」講談社
【参考書】	本授業に関わる知識を深めるための参考書をいくつかあげておきます。また本授業の先まで学習を進めるための参考書の案内をeALPS/eChesに掲載してあります。 久野遼平他「大学4年間のデータサイエンスが10時間でざっと学べる」KADOKAWA 倉田博史「大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる」KADOKAWA 我妻幸長「Google Colaboratoryで学ぶ！ あたらしい人工知能の教科書」翔泳社 矢沢久雄他「コンピュータはなぜ動くのか」日経BP 矢沢久雄他「プログラムはなぜ動くのか 第2版」日経BP 中井悦司「ITエンジニアのための機械学習理論入門」技術評論社 浅野正彦他「はじめてのRStudio」オーム社 高橋秀一郎「e-Statと仲良くする本」NextPublishing 西田典充「Rでらくらくデータ分析入門」技術評論社